

今は幸せ

逗子市支部 松井 ヨシエ（妻）

戦没者 松井 定雄

戦没地 フイリピン

昭和十七年二月十一日、昔では紀元節、縁あつて急に結婚、戦争が日増しにひどくなり、電気技師として軍関係の仕事にて夜勤が多くほとんど休みがなく、朝帰りが多く、勿論今の様に好きな旅行や趣味もできず、唯働くのみの時代でした。そんな時、仕事関係で急に外地に派遣され、勿論何処へ行くか飛行機の都合でのみと急に旅立ちました。それが別れの始まり、それから一ヶ月余り、台湾より葉書が一枚来たのみで住所もなく、名前だけで唯々台湾で「妹の主人に会った、それも初対面、義理の弟に会った元気でした」と余計な事は何も書いてなく（結局この人も戦死とのこと）

「南方方面で戦死」の知らせが届きました。呉や横須賀復員局で聞いたがわからず、「十九年マニラで戦死」と呉の復員局より型だけの通知が戦死の報告でした。それもこちらが催促して公報を受けた訳です。

軍人も軍属もなく、マニラで最後の総攻撃にて玉砕、その日を命日としております。

空襲の激しいときなど、二歳半のこどもは真夜中でもサイレンの音で目を覚まし泣かずに「オンブ、オンブ」と背中に廻り、オンブして暗い夜道の踏み切りを渡り、山の根に自分たちで掘った防空壕に隣り組の人達と一緒に助け合って夜を明かした事か・・・。

主人の葬儀を終えてから姑は「貴方はまだ若いから再婚を」と言われましたが、「子供は絶対置いて行って下さい、私共としては、唯一人の跡取りの息子の子供だから」と言われましたが子供をおいて、私にはそれができず働くことを決め、現在にいたりました。九十歳にあと数ヶ月、苦しいこと、悲しいことも数々ありましたが、今となりますと、健康で子供も人並みに育っています。

今は平穏な日々恵まれ、私はまだ幸せな方と感謝して生きています。